



肢体不自由

病気・事故などが原因で、手や足、胴など体の部分に障がいがあることをいいます。「歩く・立つ」といった日常生活の動作や姿勢の維持に支障がある場合や、脳に損傷を受けた場合は、言葉の不自由さや記憶力の低下などを伴うこともあります。障がいの部分や状態によってかなり個人差があり、日常生活の中で車椅子を使用する方、杖を使いながら歩く方、義手・義足を使う方や、動作の補助をする介助犬同伴の方もいます。また、見た目ではわからない方もいます。

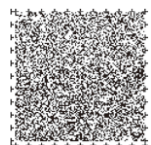
代表的な疾患と症状

脊髄損傷……手足が動かないだけでなく、感覚もなくなり、体温調節が困難です。

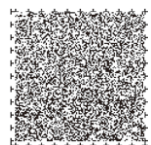
脳性まひ……顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いてしまう(不随意運動)に加え、発語の障がいがある方もいます。

筋ジストロフィー……全身の筋肉がだんだんと萎縮していく難病で、萎縮が進むと全面的な介助を必要とする重度身体障がいとなります。

摂食嚥下障がい……食べること、飲み込むことが困難なため、食べ物にトロミをつけたり細かく刻むなどの加工が必要です。



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



はいりよ
配慮

こんなサポートがうれしい!

困っていそうなときは積極的に声を掛けてください。

狭い通路やちょっとした段差が移動を妨げます。また、高いところや床にあるものを取ることで、カートなどを操作したり、ものを運ぶことも困難です。困っている様子を見かけたら、どのようなサポートが必要か積極的にきいてください。

話がきき取りにくい場合は確認してください。

スムーズに話すことが難しかったり、顔や手足などが自分の思いとは関係なく動いたりしてしまうため、自分の意思を伝えるに苦しい方もいます。きき取りにくい場合でも、分かったふりをせず、きちんと内容を確認してください。

子ども扱いをしないでください。

病気や事故で脳に損傷を受け、言葉がうまく話せない方に、子どもに対するような接し方をせず、年齢に相応な対応をすることが大切です。また、下り道の歩行や細かな作業が苦手で、時間がかかることがあります。一人でできる場合は見守ることも必要です。

話をするときは少しかがんでください。

車いすを使用しているときに、立った姿勢で話をされると相手を見上げなければならないので、疲労又は威圧感を感じることがあります。会話の際は、少しかがむなどして視線の高さをあわせましょう。

事例

たとえば、こんなことがあります。

車いすを使用していると、スロープのすぐそばに荷物が置いてあったり、店舗内の通路が狭かったり、段差があったりして移動できない、商品棚が高くて欲しい商品を取ることができない、など不便なことがあります。そんなとき、周りの人から積極的に一声掛けてサポートしてもらえると、うれしいです。



※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。